

## 情報・メディア

校内から SWYer を増やそうと、学部長と連携している。積極的に学内講演を行い、情報メディアコースで培ったメディアに関する考え方をもとにし、ソーシャルメディアを利用し、SWYer を増やす取り組みを行っている。

## 社会企業家精神

日本文化を世界に発信出来るように知識をつけ、資格取得を目指す。又、社会人一年目なので、グローバルで活躍出来るようなビジネススキルを得る。外国人参加青年が日本に訪れた時にしっかりとした対応が出来るようにする。

## ボランティア

イギリス留学後は数ヶ月間フィリピンまたは東南アジアでのインターンシップを行いたいと考えている。帰国後は SWY をはじめあらゆる事業のボランティアや実行委員を務め、国際交流を継続するだけでなく自身の経験を様々な人と共有をしたい。

海外の exPY のところに行き(スリランカ周辺)、会うだけではなく、現地でボランティアをする。また、日本の文化を紹介する活動も行う。

地元の IYEO メンバーと共に寄港地活動の受入れ、事業説明会の企画

## その他

自分が所属する組織において、適宜最善を考慮し、同僚と協働して業務の遂行を図ることに貢献したい。事業のネットワークを継続し、できる範囲で互いに訪問し合う。

IYEO の一員として事業活動を多くの方へ広め、未来の参加青年を増やす広報活動に努める。

4 月から国際交流およびダイバーシティ教育の教員となることとなったため、大学生の国際交流推進に一層力を入れる。

## 問6-2 5年以内の計画

### 異文化理解

仕事以外でも、できる限り海外の人との関わりをもち、自身の視野や新たな価値観を学び続けていく。その為に、IYEO やその他国際交流活動に積極的に参加していく。参加事業を通して日本について知らない事の多さや、説明する難しさを痛感し、また留学中に日本語を教える機会を得て、5 年以内には海外で日本語や日本文化を教える活動に長期的に従事したい。

各種プログラムで各国参加者・日本人参加者の受け入れ(異文化理解の向上)。

国内外での国際交流活動への参加

### 教育

教育の分野で専門的な知識・技能を発揮してリーダーシップをとることができるようになるために、海外の大学院に留学し、教科指導力と学校マネジメント能力を伸ばしていきたいと考えます。教育の分野にて、SWY で学んだことをいかしたい。

国際理解教育を続けて、子どもたちの変化をみてまた授業づくりを改善していきます。

### 社会企業家精神

日本に限らず、世界の食事情の改善を図りたいため、オーガニックフードの事業を立ち上げたい。

地元でグリーン・ツーリズムの活動を行い、外国人と一緒に地域づくり活動を行う。

旅人、地域の人が交流できるような、ゲストハウスを作るために、スキルを身につけたい

海外で起業する。

オリンピックに向けて増える外国人観光客と関わり、言語面でのサポートをする。特に既参加海外青年向けにツアー等を企画したい。

5年以内には、日本の青年に関わる職場か事業に再度挑戦できるようになるまで成果を出し、効果的なフィードバックを与え、青年の成長を助けられるようになることを目標にします。  
その前段階として、5年以内に具体的なコンセプト、展開規模、人員確保方法、ファンディング手法を詰めたいです。

### 情報・メディア

社会人として働きながら、コースディスカッションで学んだことをいかして情報を発信していく立場になる。具体的にはアジアの情報を収集してオンラインで発信する。

### ボランティア

ホームステイの受け入れなど訪日外国人との交流を通じて、日本の魅力を発信し、同時に日本の国際交流を活性化させたい。

途上国へ行き、現地の状況を理解したり現地の人の意見を理解する。自分に最も出来ることをボランティアとして行動する。

### その他

日本国内にいる既参加青年(海外青年含む)と地域の人、大学生との交流の場を設け、PYセミナーのような全員参加型のワークショップを開催すること。

事業における縦のつながりやIYEO組織のネットワークを活かして事業活動の意義を広める社会運動を企画・運営したい。

仕事を通して、英語力や技術力、グローバルマインドを身につけ、将来は通訳案内士などとして、訪日外国人をおもてなしする活動に関わりたいと考えています。日本はおもてなしがすごいと言われていますが、SWYに参加して、OPYのおもてなしに感銘を受けました。それから、国籍は関係なく誰かのために自分が出来ることをしたいと考えるようになりました。

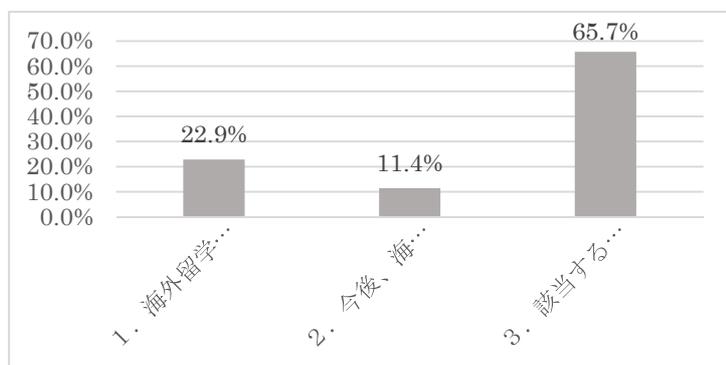
TOEIC とメンタル面を磨き、教育の分野で青年海外協力隊に参加したい。

地域の魅力を引き出し、国内外の人々に訪れたい・触れたいと思わせることのできるような環境や仕掛けづくりができる人になる。

問7 事業参加後、海外留学を経験しましたか。あるいは海外留学について具体的に計画していますか。

事業参加後に、「海外留学を経験した又は現在海外留学中である」が 22.9%、「今後、海外留学をすることを具体的に計画している」ものが 11.4%あり、あわせて 34.3%いる。

項目	人数	%
1. 海外留学を経験した又は現在、海外留学中である	16(名)	22.9%
2. 今後、海外留学をすることを具体的に計画している	8(名)	11.4%
3. 該当するものはない	46(名)	65.7%



問7-2 事業終了直後に、事後活動への参加や海外留学のほかに、事業の成果をいかすために設定した目標や計画について、達成したものや、達成に向けて行動しているものについて記載してください。

資格取得やセミナー参加等、新たに知識を得ることに関する言及が目立つ。

グローバル化するためには、自分の足元をよく知らないといけないと思った。自らも地元の歴史や良さを知るよう努力するようになった。地元の良さを知ってもらうために、県外や海外青年を招いて地元の観光案内やツアーを企画した。
事後活動に関わる。
資格の取得及び取得のため学校へ通い始めた。 ・日本語教育能力検定試験 ・漢字検定 ・通訳案内士 ・TOEIC スコア向上
自ら進んで外国人観光客に声を掛けるようになった。
イスラム教についての知識が増えた。これからも宗教について学んでいきたい。
東南アジアの一人旅。

## 第2章 内閣府青年国際交流事業への参加状況と参加による影響について

問8 内閣府事業に参加したことで、あなたのその後の人生やキャリアにどのような影響がありましたか。下記 a から i に挙げる項目について、「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち該当するものをそれぞれ1つお選びください。

「a.事業に参加したことは自分の人生や人としての生き方に良い影響を与えた」については、「ややそう思う」以上が100%であり、そのうち「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると92.9%と高い数値となっており、参加青年に与えた影響力の高を示している。

「c.事業に参加したことで、日本と海外との関係に関心を持つようになった」については、「ややそう思う」以上が98.6%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると95.7%と高い数値となっており、参加青年に与えた影響力の高を示している。

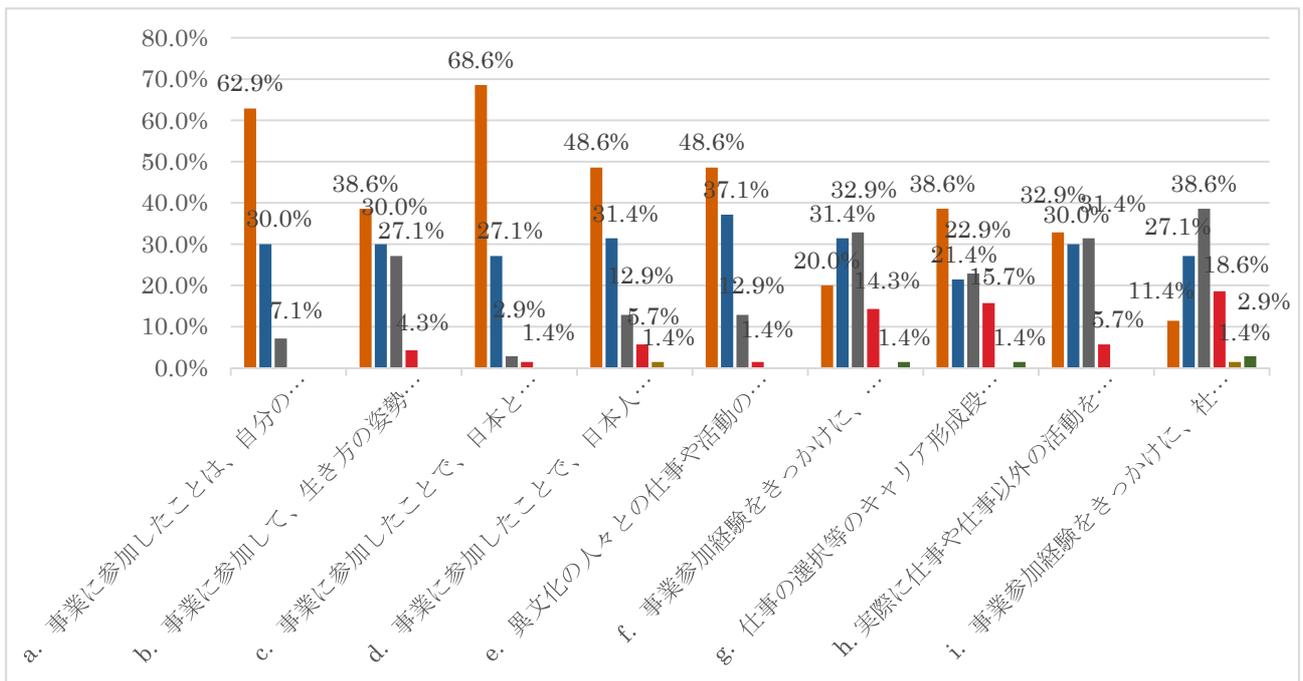
「e.異文化の人々との仕事や活動の共同に置いて、事業参加経験が役立っている」については、「ややそう思う」以上が98.6%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると85.7%となっている。

また、「d.事業に参加したことで、日本人としてのアイデンティティを意識するようになった」については、「ややそう思う」以上が92.9%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると80%となっている。

「h.実際に仕事や仕事以外の活動をするうえで、事業参加経験が役立っている」では、「ややそう思う」以上の割合が94.3%であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると62.9%となっている。

いずれも参加青年に与えた影響が、非常に高いことを示している。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
a. 事業に参加したことは、自分の人生や人としての生き方に良い影響を与えている	44(名) 62.9%	21(名) 30.0%	5(名) 7.1%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
b. 事業に参加して、生き方の姿勢やものの見方が変わった	27(名) 38.6%	21(名) 30.0%	19(名) 27.1%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
c. 事業に参加したことで、日本と海外との関係に関心を持つようになった	48(名) 68.6%	19(名) 27.1%	2(名) 2.9%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
d. 事業に参加したことで、日本人としてのアイデンティティを意識するようになった	34(名) 48.6%	22(名) 31.4%	9(名) 12.9%	4(名) 5.7%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%
e. 異文化の人々との仕事や活動の協働において、事業参加経験が役立っている	34(名) 48.6%	26(名) 37.1%	9(名) 12.9%	1(名) 1.4%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
f. 事業参加経験をきっかけに、リーダーシップやマネジメント力が向上した	14(名) 20.0%	22(名) 31.4%	23(名) 32.9%	10(名) 14.3%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
g. 仕事の選択等のキャリア形成段階において、事業参加経験が役立っている	27(名) 38.6%	15(名) 21.4%	16(名) 22.9%	11(名) 15.7%	0(名) 0.0%	1(名) 1.4%
h. 実際に仕事や仕事以外の活動をする上で、事業参加経験が役立っている	23(名) 32.9%	21(名) 30.0%	22(名) 31.4%	4(名) 5.7%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
i. 事業参加経験をきっかけに、社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった	8(名) 11.4%	19(名) 27.1%	27(名) 38.6%	13(名) 18.6%	1(名) 1.4%	2(名) 2.9%



問9 事業終了後、異文化の人々との仕事や活動の協働や、リーダーシップやマネジメント力の発揮が必要な場面において、どのように事業参加経験がいかされましたか。

異文化理解の観点では相手の立場を知ろうとすることが、リーダーシップの観点では、サポーターとしての立ち位置についての言及が目立つ。

- 自分と意見が食い違うときに、自分の意見もしっかり伝え、相手の意見もしっかり聞き、意見をすり合わせられるようになった。
- 異文化の人々との活動においては、まずは自分の事業での経験を話せて色々な角度からの話題を作れた。事業中に異文化への理解が深まったので、より相手のことを理解したうえで交流できた。
- リーダーシップの発揮が必要な場面では、以前よりも状況の把握ができるようになったので、必要に応じバランス感覚を持って意見交換することができた。
- 異文化を理解したいという思いが強くなり、より良い関係を築けるようになった。
- 偏見を持たずに、その人をひとりの人として接することができるようになった。
- 異文化の人であっても、感謝を伝えることは共通に大切なことで、感謝はしっかり相手に伝わるものだと分かった。そのため、事業後仕事や生活で異文化の人と交流をする際にも、感謝をしっかり伝えられるようになった。また、中途半端な理解で分かったふりをせず、分からないことはわからないと言えるようになった。行動だけで人を判断せず、理由を考えるようになった。
- 他者を理解することで、自分自身を知ることが出来た。これはとても大きい。

伝え方、話の内容を人に応じて変えるようにするなど話し方を変え、仕事上での交渉等に役に立っている。

インターンで年齢層が違う人と働く経験をしたが、SWYの中で年齢層が違う人の中でリーダーシップを発揮していった経験が生かされた。

チームのリーダーとしてグループを牽引する立場において、榎本講師のリーダーシップセミナーの考え方がとても参考になっている。

リーダーシップセミナーで学んだ、「自分が前に出るべき時は出る、そうでないときは一歩引いてサポートに回る」ということを心がけることで、精神的に楽になった。

プレゼン発表の大会に参加する際、務めたリーダーの役割を考える上で、リーダーシップセミナーで私に合っていると分かった後方支援型のリーダーシップを利用し、結果を残せた。

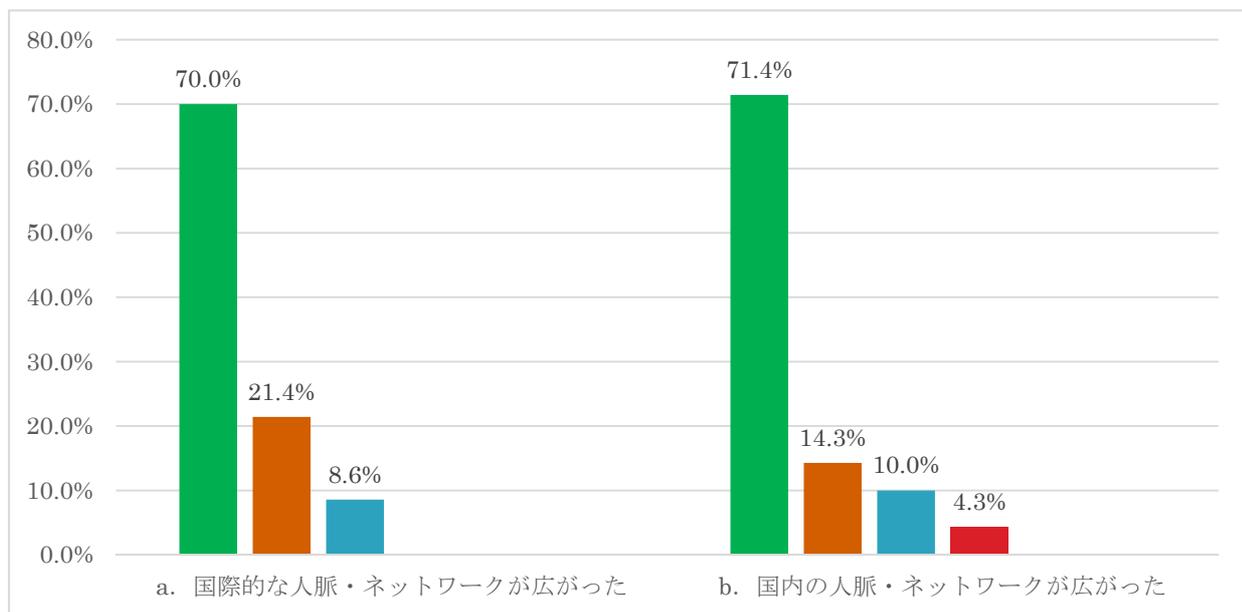
問10内閣府事業に参加したことで、あなたの国際的又は国内の人脈やネットワークは広がったと思いますか。「①非常にそう思う」「②そう思う」「③ややそう思う」「④あまりそう思わない」「⑤そう思わない」「⑥全くそう思わない」のうち該当するものをそれぞれ1つお選びください。

「a.国際的な人脈・ネットワークが広がった」の項目で「ややそう思う」以上の割合は 100%であり、その中で「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると 91.4%と大変に高い数値を示している。

また、「b.国内の人脈・ネットワークが広がった」の項目では、「ややそう思う」以上の割合は 95.7%であり、その中で「非常にそう思う」が 71.4%と高い数値であり、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせると 85.7%である。

国内外ともにネットワークの広がり高い効果があったことを示している。

項目	非常に そう思う	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	全く そう思わない
a. 国際的な人脈・ネットワークが広がった	49(名) 70.0%	15(名) 21.4%	6(名) 8.6%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%
b. 国内の人脈・ネットワークが広がった	50(名) 71.4%	10(名) 14.3%	7(名) 10.0%	3(名) 4.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%



問11【問10で①～③を選んだ方のみ回答】どのような場面で、ネットワークが広がった、役に立ったと感じましたか。具体的にご記入ください。

44名が回答をし、世界中に信頼できる仲間ができたことや、ネットワークが広がったことで、さまざまな場所で、多様な人々とコミュニケーションを取ることができ、進路を含む将来を考えるきっかけになったというコメントが目立つ。

全国、全世界に友達ができた。全国や世界のニュースが自分ごとになった。

より広い視野での意見を知ることができた。他の PY の出身地や留学先を訪ねたことでより深いその土地の魅力を感じることができた。
国際理解の視点を取り入れた授業を行う際、OPY に協力をしてもらってリアルな言葉や写真を用いて子どもに伝えることができた。
旅行をする際や、学部でのリサーチ、海外で何かボランティアをしたいと考えたときに、現地人からみた現地の状況を教えてもらえたり、英語以外が公用語の国での活動をサポートしてもらったりした
世界中にいる個性あふれる参加青年の生き様から自分が常にInspireされているため、ネットワークが広がったことを日々感じる。
今まで訪れたことのなかった国や地域に友人ができ、メディアを通してでは分からない彼らから得た生の情報からその国や地域を見ることができたと感じたとき。国内に関しては社会人や他大学の学生と知り合え、それぞれ自分の長所を生かして取り組む姿を見て刺激をうけたとき。
個人でイベントを企画した際に SWY のネットワークを活かして集客に役立てられた。
同業他社の話を知る機会が増え、アドバイスなどをもらう機会が増えたのは大変役に立ったと感じている。
他業種の人とのコミュニケーションが増えたと感じている。
Facebook のようなソーシャルネットワークを通して、国内外の参加青年と関わりを持ち続けられている点大きい。彼らの投稿を通して、自分とは全く違った視点を多く得る事ができている。また、他の既参加青年が精力的に活動する姿は、自分を鼓舞する力になっている。さらには、現在留学中の既参加青年も多い為、彼らとの交流のなかで将来に対する考え方や情報交換を行っている。

### 第3章 あなたの将来に関して

問12 あなたは、同じ事業に参加した外国参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

回答者全員(100%)が事業参加後も外国青年と現時点でも交流が続いていると答えており、事業のねらいが達成されていると評価できる。

項目	人数	%
1. 交流が続いている	70(名)	100.0%
2. 交流は続いていない	0(名)	0.0%

問 12-1 交流が続いている(続いていると答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください(複数選択可))

a のソーシャルメディアを利用した交流が 95.7%と極めて高いことが特徴であるが、同時に b の直接のコミュニケーションによる数値が 67.1%であり、事業の成果を示している。

項目	人数	%
a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとりを通じた交流が続いている	67(名)	95.7%
b. 事業終了後に外国青年を訪問する、外国青年の訪問をうけるといった交流が続いている	47(名)	67.1%